

第60回日本母親大会

母親の行動が世の中を変える

病院支部 半田政子さん

8月2・3日、34度という真夏の炎天下の中、神奈川県バシフィコ横浜にて行われた第60回日本母親大会に参加してきました。

この母親大会は1955年3月1日、アメリカのビキニ環礁での水爆実験で、第5福竜丸が死の灰を浴びたことを機に「核戦争から子どもたちを守る」という母親たちの熱い願いから始まりました。

「生命（いのち）を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることそのぞみまます」というスローガンのもとに地域からの願いや運動をもちより、子どもたちに明るい未来を手渡そうと、一度も絶えることなく毎年開催されてきました。

2万枚の要求シート

れました。

2日目の分科会は「ビッグてい談」に参加。会場いっぱい埋め尽くす人の中で「ビッグてい談、世界から見たアジアと日本」と題して、元NHKアナウンサー古屋和雄さんのコーディネーターと3人のパネリストにより行われました。その中で心に残った言葉がありました。国際政治学者で91歳の畑田重夫さんが「このままでは死ねない、命のある限り全国を行脚する」と話され、いかに平和が大切であるかを身をもって語る強い決意に感動しました。さらに「母親が行動を起こせば世の中が変わる」と話している姿をみて、心にジーンと響くものがありました。

また、東京大学の小森陽一教授による「子どもたちに憲法が輝く明日を」と題しての記念講演があり、地域からの運動がいかに大切であるかについて話された大会でした。

また、東京大学の小森陽一教授による「子どもたちに憲法が輝く明日を」と題しての記念講演があり、地域からの運動がいかに大切であるかについて話された大会でした。

第26回宮城県労連大会 県内の労働者の 闘いの中から

9/6 戦災復興記念館

会場から17名の発言

がありました。すべて議案に対する補強意見でした。大会では、憲法を守るための署名の500万筆達成、労働者保護法の大改悪を阻止して社会制度解体攻撃に対する闘いの継続、東日本大震災復興の取り組み、組織拡大、安倍政権打倒を確認しました。

争議中の発言ではD10ジャパンの闘いで、賃金不払い、解雇の問題です。東日本大震災からの「復興」に向けた「人材育成」を掲げた国の「緊急雇用創出事業」でD10社は約43億もの委託費を受け

43億もの委託費を受け

取りながら受注が取れないと閉鎖、休止状態になっていきます。最低5年は雇用を継続するという協定にも違反するものです。給与も払ってもらって仕事を続けさせてほしいと訴えていました。

また、泉区内の個人開業医の、業務委託を口実にした歯科医師技士の解雇、賃金不払い、パワハラ問題では、開業医は裁判所の呼び出しにも応ぜず無視を続け、視察に来た裁判所に対しても警察を呼ぶという珍事件の紹介でしたが、今は和解に至ったそうです。

福島原発事故収束作業に携わった原発下請会社で働く労働者2名が危険手当の支払いを求めて全国初の裁判闘争になっています。役員関係では、三役は変わらず、東北大からは千葉裕輝さんが常任幹事、鈴木大介さんが会計監査に選出されました。(編S)

ブラック企業対策の徹底解説

～学生、親、教師が学ぶべき対処法と見分け方～

講師：NPOSS代表 今野晴貴さん

日時：11月8日（土）～9日（日）

場所：フォレスト仙台

記念講演



2014子どもの未来ひろく 宮城教育のつどい

子どもと教育についてさまざまな立場から語り合う市民のつどい